

「成田用水の打ち」(6/28~7/7)を実力阻止

88集会の成功にむけて
シリーズ 2

日刊 労働千葉

83. 7. 26

No. 1400

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五三五(六・公衆)〇四七二(22)七二〇七

緊迫する

現地 反対同盟破壊攻撃を許すな

六月二十一日に千葉にのり込んできた中曽根が、「二期推進」の反動的な命令をかけたこと、敵政府・空港公団および地元の反動諸勢力が今一斉に二期着工のための具体的攻撃にうって出てきている。その直接のあらわれとして敵は、去る六月二十八日から七月十二日にかけて、反対同盟の分断・解体のみを目的とした「成田用水工事強行のための杭打ち」を強行しようとしてきた。敷地内を先頭とする反対同盟は、連日決起をもってこの攻撃と実力で対決し、ついに一本の杭も打たせないという先制的な勝利をかちとつた。いよいよ二期をめぐる現地の攻防戦は、具体的な火ぶたを切つて落した。

反対同盟、

連日総決起で杭打ちを実力阻止

成田用水のための杭打ち第一日目としてかけられてきた六月二十八日、反対同盟は全力で実力決起し、一本の杭も打たせない勝利をかちとつた。これに打撃をうけた用水推進派は第二日目からは大量の国家権力・車五台分の私服に守ってもらつて強行をたくらんだが、反対同盟の実力決起で中止に追い込まれた。七月四日、百名をこえる反対同盟と支援は、朝八時に決起し敵をまちうける。九時すぎ用水推進派が中郷公民館に集合するや、反対同盟は怒りの声も高く公民館にのり込み徹底糾弾。一本の杭も持ち出せず逃げる彼ら。午後、別の場所にこそそこそと集合し、こっそり杭打ちを狙った彼らも、たちどころに反対同盟に摘発され、激しい抗議・糾弾にさらされるや、またも一本も打てないままに逃げかえる。連日の阻止闘争に完全に圧倒され焦つた用水推進派は、七月六日は、何と早朝五時に、あらかじめ各戸ごとに配つておいた杭を各自がこっそり打つてくるという前代未聞のデタラメなやり方に逃げ込んだ。最終日の七月七日、反対同盟の怒りの決起の前に誰一人現地に近よれず、用水派の頭目・石井英祐氏がただ一人早朝の草薊りを装つて杭をうち逃げかえるという大破産状況をきたしてしまつた。反対同盟は、七日、杭打ち阻止闘争の勝利を確認する集会をもって、意気高く成田用水実力粉碎・二期阻止への決意をうちかためた。

反対同盟の分断・懐柔と

敷地内農民追い出しを狙う公団

中曽根自身も公言しているように、二期着工は、「反対派農民からの土地買収」土地強奪・追い出しに一切がかかっている、が故に、この間の敵の攻撃は、第一に、「話し合い」路線と称する敷地内・外



へりでまかれた雑草の種と肥料(白く畑をおおっている)が畑を殺してしまう。この日撒かれた種は繁殖力が極めて強く、広く根を張り、成長すると1.5M~2.0Mにも達するたちの悪い雑草となる。

を分断し、条件派を同盟内に育成し、基本路線を破壊する攻撃。その最大のものが「一戸当たり一千万円の援助」といわれる成田用水を使った切り崩し攻撃である。第二に、一部の「一坪再共有化」運動派に脱落派の反対同盟からの逃亡(三月八日)によつて、「同盟を丸ごと条件派化する」政策が完全に粉碎されてしまったことによつて、敵は、今悪質きわまりない敷地内農民の追い出し、圧殺の重圧をかけてきている。

昨年末、公団用地課長・前田が敷地内・市東さんの子息の職場を訪ね「元も子もなくなるぞ」とどう喝、四月には条件派の個人名で「いい条件で仲介しよう」と手紙を出させたり卑劣行為を繰り返している。また、それでも効かぬと見るや、へりで空から牧草をまき散らし、反対同盟農民の田畑を荒らす(五月と七月)などの悪質な攻撃を繰り返している。

このような中曽根発言をバネに一層激化する二期攻撃(その最大なもの、8・8パイプライン供用開始)攻撃である)を一つ一つ粉碎して勝利をもぎとつていこう。